

「湖国の作曲家 中村典子 & 若林千春作品集」

「信長、秀吉が聴いた音」と題した「湖国の作曲家」中村典子 & 若林千春作品集」。9世紀から現代まで、洋楽とクラシック音楽とが交差するプログラムが斬新であった。出演はKEE-BUNシンフォニーエッタ。バッハ、ジヨスカン・デ・プレそしてカベソン作品の編曲に中村、若林の作品が続くことで、過去の音楽遺産と現代の創作との時空を超えた交歓を見いだすことができた。またグレが実はつながりがあるという近年の研究にもとづき、オーケストラと箏との共演が行われたのも面白かった。若林の委嘱新作《飛び出し小僧Ⅲ》は擬古典的な親しみやすさもある音楽。中村の委嘱新作《眞聲水如》はピアノ、打楽器の多彩な使用も含め、重層的な響きを実現していた。演奏者は若手が多かったようだが、バリ島のインスピレーションから書かれた若林《迦陵頻伽Ⅱ》でピアノ・ソロをつとめた弱冠22歳の久末航がとりわけ素晴らしかったことを付言しておきたい。(7月31日・しがぎんホール)

〈伊藤制子〉